



故宮博物院（旧紫禁城）を訪れたとき、胸に「紅哨兵」と書いたワッペンをつけた少年に出会った。「紅小兵」というのは文革時に、「紅衛兵」と並んで活躍したが「紅衛兵」というのは日本にはまだ紹介されていない。聞くと、この小学生は、「紅小兵」の中で災害などのとき、先頭に立つて活動する当番にあたるのだと答えてくれた。

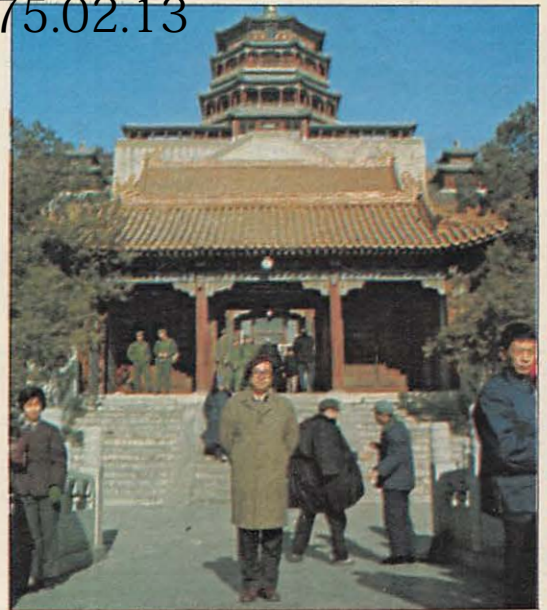
中島嶺雄氏 (東京外国語大学助教授)
国際関係論

写真・文 / 中島嶺雄

北京8年目の発見

北京8年目の発見 週刊現代-1975.02.13

私にとって北京は八年ぶりである。一月八日、モンゴル人民共和国を経てから国際列車で入境、九日朝北京に着いた。厳寒のシベリアと、零下四十度のウランバートルを経由して訪れた北京は、いくらか暖かく感じたが、それでも寒さは東京の比ではない。私が中国に滞在した一週間は、ちょうど第四期全国人民代表大会を迎えようとしていた時期だったが、市民の表情、街の光景は、落ち着いていた。前回私が訪れた北京は、文化大革命の真っ最中であった。壁新聞や紅衛兵が町中に氾濫し、町中が喧騒に満ちていた。あの八年前の激動する歴史のひとコマを目撃した私は、今回の北京の落ち着いた表情に接して、多くの感慨を催さずにはいられなかった。



万寿山を背にした中島嶺雄氏

いい日だなあつて いえる毎日を!



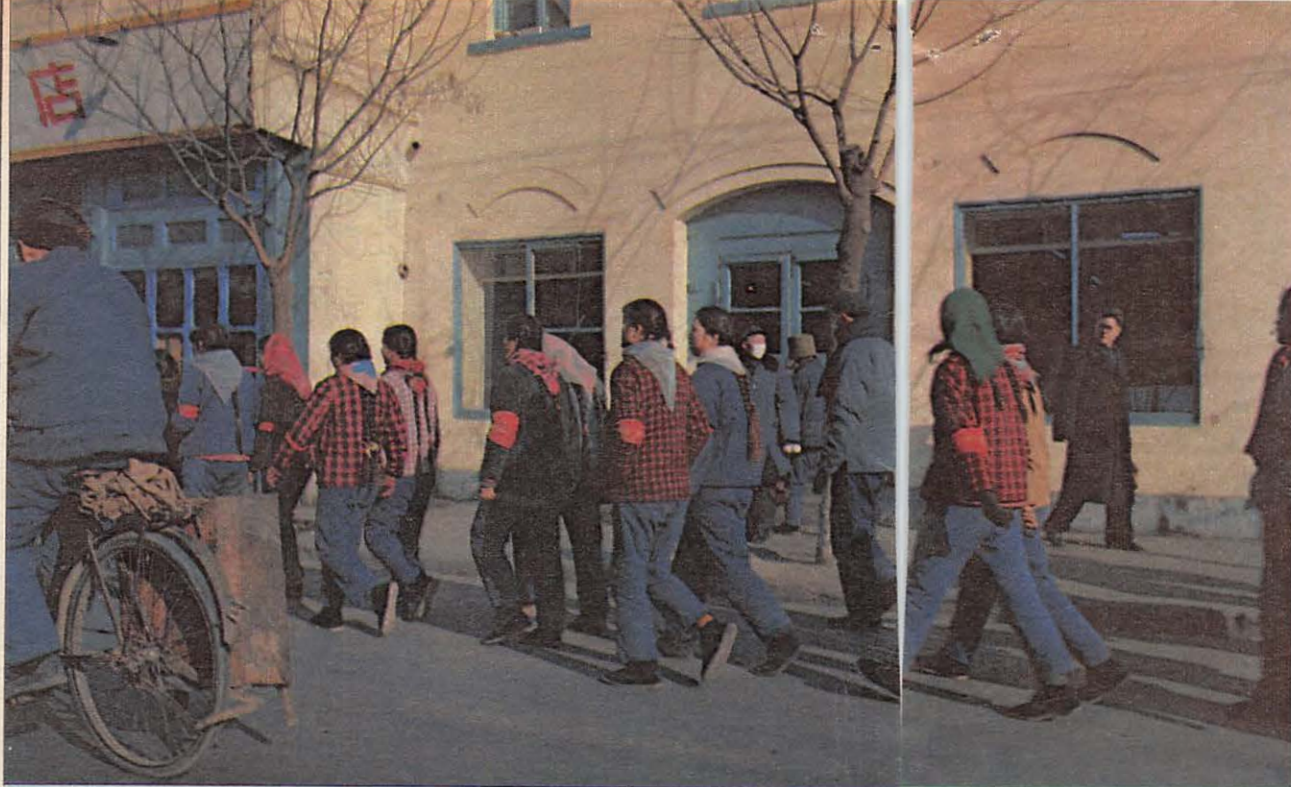
ほんとうのところ、いい日ばかりとはいえませんね。でも、暮らしを楽しもうとする工夫だけは忘れたくないものです。ひとつ、暮らしのアンクルを変えて、あなたのまわりを見直してみませんか。意外と、ふざけん気がつかなかったところに、喜びどころがあるもの…。なにも、お隣やみんなと同じ暮らし方、追いかけることはありませんね。あなたはあなたなりの生き方を大切に、そして毎日をイキイキと!

お給料の銀行振り込みがふえています。

お給料の振り込み口座は、全国220余の支店どこでもお引き出しができる《協和》が便利です。カード1枚でご預金からおろせるキャッシュカードをおつくりいたします。

協和銀行

●全国220余の店舗・13,000人の行員がみなさまのお近くに。

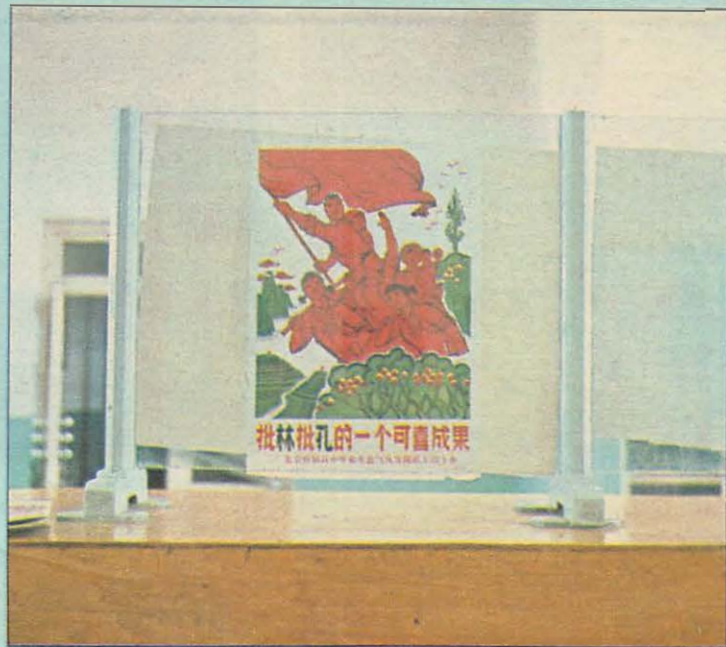


全国人民代表大会は、私が帰国してから開催が伝えられた。だが、私の滞在中、私は全人代開催間近と思われるいくつかの現象にぶつかった。旧鼓楼大街に、糊あとも生々しく貼られたステッカーもそのひとつである。それには、「**實際行動によって第四期全人代の開催を迎えよう**」というスローガンが書かれていた。

この街だけでこれを見かけたのは、全人代の代表がここから選出されたからであろうか。

紅衛兵は文革のときとガラリと性格を変えた。現在の紅衛兵は小学生でクラスの40%、中学生で70%いるそうだが、その全員が赤い腕章をつけているわけではない。つけているのは模範学生だという。概して、女子学生に腕章をつけているのが多い。

モンゴル人民共和国から国境を越えて、内モンゴル自治区に入ると「二連」という駅がある。この国境の駅頭では批林批孔運動の成果をたたえるポスターを見かけた。しかし、この種のポスターやスローガンは、北京に近づくにつれてその数が減っていったように思われる。



北京では壁新聞は全く見ることができなかった。昨年の暮、北京市革命委員会の前の壁には多くの壁新聞が出て話題を呼んだが、いまは痕跡すらない。ただ、その壁に「抗叙」と大書された文字だけが唯一の痕跡といえようか。



「北京友誼商店」は外国人専用のデパートで、一般の中国人は入れない。ここには高級品を中心に豊富な品物が揃えてある。さすがに店内は洗練されたムードにあふれ、店員も美人が多い。夜になると北京では珍しいネオンサインに彩られ、ひととき華やかだ。外国人向けに限らず、八年前よりも消費財が豊富に回るようになったのも最近の傾向らしい。

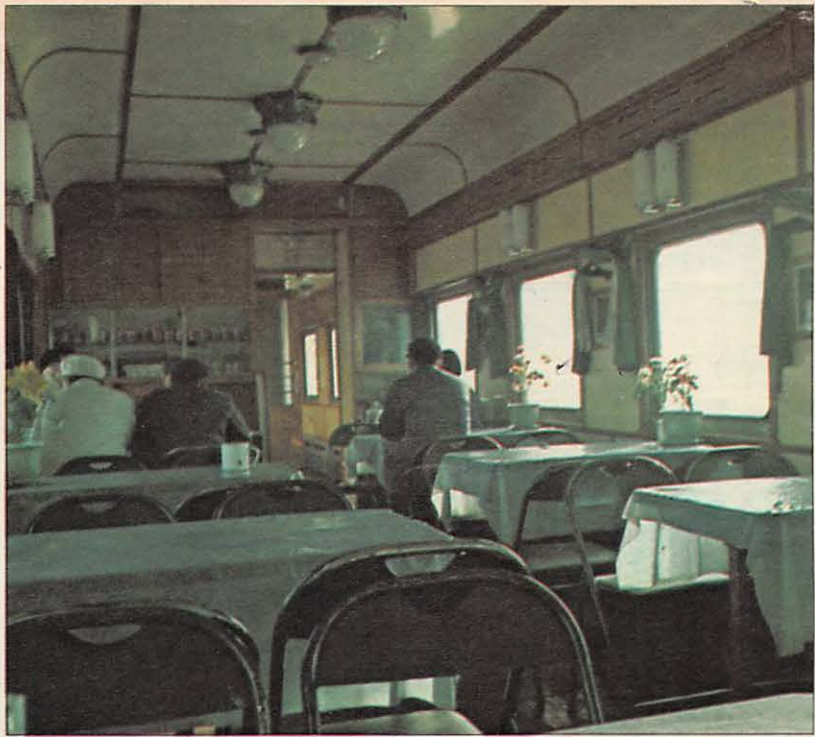




守りの一番手

ドアロック

タフでスマートな守りの一番手。
キンマツの技術がこのドアロックの
すみずみに生かされています。



ウランバートルから北京まで汽車旅で三日。
ゴビの砂漠地帯を、日本のSLファンが喜び
そうな蒸気機関車にひかれた国際列車がひた
すら走りつづける。この中の食堂車は、日本
のくればれば質素だが料理はうまい。とく
に「回鍋肉」は大変おいしかった。

この「朝陽飯店」は、北京在住の日本人にも評判の山西料理の店
である。前門外付近の北京の下町にあるが、日本の中華街あたりで
よくみる店の構えは中国では珍しい。おいしいうどんや包子（まん
じゅう）を出してくれる。



キンマツ

サッシ金物

近松金物株式会社

本社 大阪市城東区古市3-12-19

大阪 06(939)1461代 536

東京・名古屋・北陸・大阪・高松・福岡・沖縄



北京の銀座といわれる王府井の近くに、東廠胡同という通りがある。このあたりは、かつて、日本の中国への文化侵略の拠点であった「対支文化事業部」のあったところ。また、昔は黎元洪總統の居宅があり、文学者の胡適も北京を離れるまで住んでいた。現在は中国科学院近代史研究所がここにありますが、十本あったと伝えられる槐の並木が六本に減っていた以外は、昔の面影をそのまま残す北京横丁である。



故宮博物院をめぐるお濠には厚い氷が張るので、少年たちの格好のスケート場となる。冬いっぱいスケートに興じる少年の姿が見られるそうだ。ここに限らず、頤和園（かつては西太后の夏の宮殿だった）の昆明湖でも、私が訪れた日曜日にはスケート客で大変なにぎわいぶりだった。

私は、楽しそうにスケートに興じる彼らを眺めながら、8年間の中国の変化を目のあたりに見る思いがした。